

「私たちは神の建物」

～この礼拝堂で捧げる祈りは天に立ちのぼっています！～

「私たちは神の協力者にすぎません。あなたがたは私たちの畑ではなく、神の畑です。私たちの建物ではなく、神の建物です。」

第一コリント3章9節[リビングバイブル]

ハレルヤ！主イエスを賛美致します！

1997年4月29日この礼拝堂が建て上げられ、主にお献げ致しました。本日はその記念の礼拝です。この場所で多くの祈りがささげられ、主への賛美がささげられてきました。

しかし、建物以上に、私たち一人一人の人生がキリストによって土台が据えられ、聖霊によって満たされ、新しい人生が継続していることに主の御業を見ます。

私たちの主が私たちのためにご自身を捧げてくださったゆえに、私たちが生かされました。そして、今度は私たちが互いに赦し合い、愛し合い、そして、この世のために主が自らを捧げたように、自らを捧げ、主によって豊かな実を結んでいくことがなされていく、それが教会です。

そのために私たちに何ができるのか？まずは互いに祈り合い、愛を表し合うことから始まります。そして、私たちの一番近い家族や、友人、親戚、近所の人々のためにとりなし、仕え、耳を傾け、寄り添うことではないでしょうか。

原発事故があった福島第一原発に最も近い教会だった、福島第一聖書バプテスト教会は、震災の三年前の2008年に新会堂を建て上げたばかりでした。しかし、その三年後の2011年以来一度もそこで集まることができないままになっています。でも、いつか必ずその場所に戻って、共に礼拝を捧げるということが佐藤彰牧師の夢であり、教会員の皆さんの希望となっています。今では最も近いギリギリのいわき市に立派なチャペルと住まいを建設されましたが、それは仮の姿であるということです。

私たちは最終的には天にある神の宮に主と共に生きるという永遠の約束が与えられています。その最終的な永遠の希望に向かって進んでいます。

この礼拝堂で捧げる私たちの祈りが香の煙のように天の永遠の住まい、神様の御座に向かって立ちのぼっていきます。痛みや苦しみが大きければ大きいほど、私たちの祈りの煙は力強く天に昇っていきます。

これからも私たちはこの礼拝堂で、共に笑い、共に泣き、共に賛美し、共に祈る中で、主の御力があらわされていくことと確信しています。

「見よ、世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます！」と仰せになった主が、私たちと共に歩み、働いておられます。これからも共に祈り、前進していきましょう！